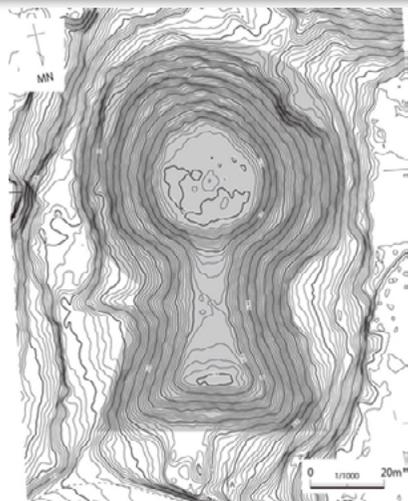


原始

第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 (1) 古墳の出現と大和政権

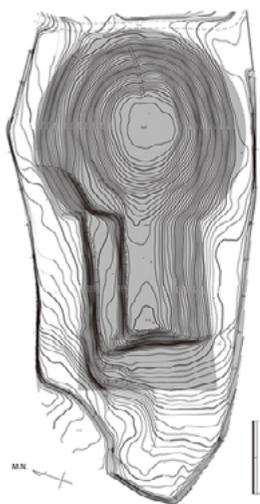
鳥取県内の大型前方後円墳 (ベスト3)



栢間 1号墳★



北山古墳★



馬ノ山 4号墳★

博山炉(香炉)文様★



馬ノ山 4号墳出土 三角縁神獸鏡
(波紋帯三神二獸博山炉鏡) ★

(注1) 従来、三崎殿山古墳(南部町)は、全長108mの前方後円墳と考えられてきたが、『新鳥取県史』に従い、全長約85mとした。そうだとすると西伯耆最大の前方後円墳であることに変わりはない。
(注2) 古墳の年代は、前期始まりを3世紀半ば、中期始まりを4世紀末、後期始まりを6世紀始めとして推察したが、研究者により違いがある。

★の写真及び図は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。

解説

鳥取県内で全長100mを超える前方後円墳は、次の3基である(注1)。

栢間 1号墳(鳥取市)◇築造時期:古墳時代中期初頭~前葉(4世紀末~5世紀前葉)(注2)

- ・全長112m、鳥取平野最大の前方後円墳。
- ・発掘調査がされておらず、埴輪・葺石があるといわれるが詳細は不明。
- ・墳形が後円部の大きさに比べて前方部がやや短い。

*前方後円墳は、時代が下るにつれて前方部が大きくなる傾向がある。

北山古墳(湯梨浜町)◇築造時期:古墳時代中期前葉(5世紀前葉)

- ・全長110m、県内最大の規模を誇る前方後円墳。
- ・前方部前端幅と後円部径がほぼ同じ長さ(古墳時代中期の前方後円墳に多くみられる特徴)。
- ・埋葬施設の竪穴式石室が破壊され、ほとんど情報が無い。
- ・竪穴式石室の南側で発見された箱式石棺1基には、中国製の鏡や鉄器類(直刀1本、短刀5本、全面に布巻きの痕あり)などが納められていた。

*前期末から中期初頭の古墳には、多量副葬の傾向がある。

- ・墳丘からは円筒埴輪(普通円筒埴輪、朝顔形埴輪)、形象埴輪(盾形埴輪、甲冑形埴輪、鶏形埴輪<雌雄あり>)が出土した。

*鶏形埴輪の雄は小型ながら足なども立体的に表現され、中期中葉以前の製作と推測される。

馬ノ山 4号墳(湯梨浜町)◇築造時期:古墳時代前期末葉頃(4世紀後葉)

- ・全長100m。
- ・ヒレ付き埴輪片が採取。
- ・三角縁神獸鏡の波紋帯三神二獸博山炉鏡が副葬。

*「博山炉」<世界の中心にそびえるとされる崑崙山を模した香炉>の文様は、波紋帯鏡群の文様で最も新しいもの。

(担当:吉田 学)

参考資料

- ・下垣仁志『三角縁神獸鏡研究事典』吉川弘文館(2010年)
- ・鳥取県『新鳥取県史 資料編 考古2・古墳時代』(2020年)
- ・高田健一『鳥取県史ブックレット 23 因幡・伯耆の古墳時代』(2021年)

*墳丘図はいずれも高田健一(2021)より転載。

*「馬ノ山 4号墳 三角縁神獸鏡」は奈良県立橿原考古学研究所編『3次元デジタルアーカイブ 古鏡総覧』(2006年、学生社)より転載。